

教如上人——その生涯と事績——

上場 顕雄

目次

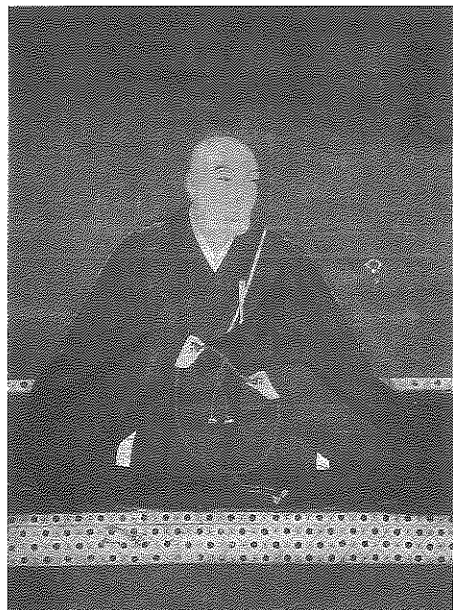
■ 教如上人とは	1
■ 誕生と得度	3
■ 大坂（石山）本願寺	5
■ 寺内町	8
■ 石山合戦	10
■ 石山合戦終結と教如上人	18
■ 大坂拘様の背景・同朋同行	21
■ 流浪と教如教団形成	24
■ 本能寺の変と教如上人	29
■ 本願寺移転	31
■ 教如上人と千利休	33
■ 教如上人継職と隠退	34
■ 教如上人と家康	42
■ 東本願寺の創立	46
■ 御坊建立と教化	51
■ あとがき	58

■教如上人とは

教如上人は本願寺第十二代の門主（門首）であり、東本願寺（真宗本廟）を創立した人物です。真宗大谷派のいわゆる派祖ともいえます。一五五八（永禄元）年九月十六日、父・顕如上人の長男として大坂（石山）本願寺で誕生し、一六一四（慶長十九）年十月五日、五十七歳で亡くなりました。したがって、二〇一三年は四百回忌にあたります。

教如上人の生きた時代は、戦国武将の織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が天下を掌握した時代で、戦国乱世といわれる世情です。教如上人は父・顕如上人を補佐して戦国武将と交渉し、この三人の天下人ともわたりあつてきました。

教如上人の顔は約一尺（約三〇センチ）あるといわれ、少しオーバー



教如上人御影（大阪府・圓徳寺蔵）

であろうと思われませんが、本願寺の歴代の門主（門首）で最も面長です。鼻筋が高く突き出て先が下向きに曲がっている、いわゆるワシ鼻で、眼光は鋭くしかも横長の切れ目に特長があります。口もとは引きしまり、顎の先端が鋭い感じがします。これらは教如上人存命中の御影（じゆぞう）からうかがえます。また背丈も六尺（約一八〇センチ）ほどあったと伝えられ、教如上人の容貌からは著名な戦国武将にも引けを取らない勇ましい印象を受けます。

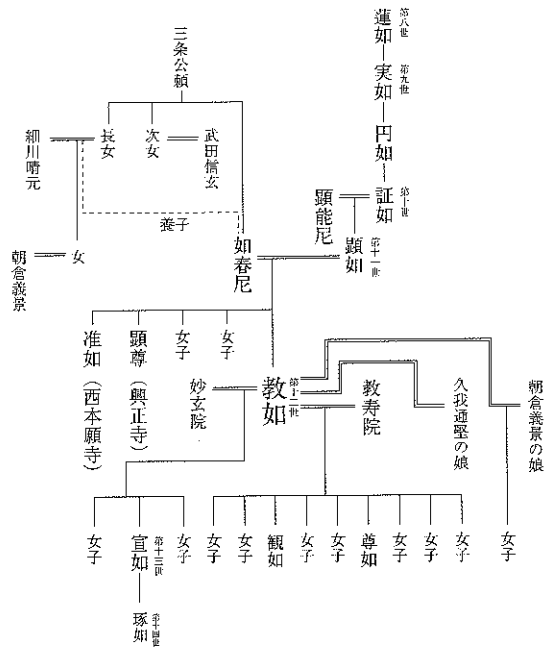
そのたくましさは、法義相統・教団護持へも向けられました。そこで教如上人の生涯をたどりながら、上人の願われたことをたずねたいと思います。

■誕生と得度

一五五八（永禄元）年九月十六日、教如上人は、父・顕如上人の長男として大坂本願寺で誕生しました。母は公家出身の如春尼で、父十六歳、母十五歳の時の子です。如春尼の二番目の姉は戦国武将の武田信玄の妻です。

祖父・証如上人は誕生の四年前に三十九歳で亡くなっており、祖母・顕能尼は誕生の二カ月前、三十七歳で亡くなっています。父・顕如上人にとつては母が亡くなった年の長男誕生ということで、悲しみと喜びが重なったこととなります。教如上人が七歳の時には、後に興正寺第十七世となる弟・顕尊が誕生しました。

教如上人は一五七〇（元亀元）年二月、十三歳で得度しました。剃刀後、



教如系図 (『教如上人と東本願寺創立—本願寺の東西分派—』
115 ページより)

父・顯如上人
 とともに、御
 影堂で「正信
 偈」・「和讃」、
 阿弥陀堂で
 『阿弥陀経』
 を勤め、齋会
 と能が催され
 たとされ、得
 度の祝賀ムー
 ドがうかがえ

ます。

一方でこの年、信長軍とのいわゆる石山合戦が始まります。

■大坂 (石山) 本願寺

教如上人が誕生してから青年期までをすごした大坂本願寺と寺内町についで紹介しましょう。

本願寺第八代蓮如上人が建立した山科本願寺 (京都市) が一五三二 (天文元) 年八月、日蓮宗徒や近江の六角定頼らに焼かれました。この時、宗祖御真影は退避させていたために難を逃れました。

翌年七月、証如上人は蓮如上人が晩年に建てた大坂坊舎に御真影を安置し、本山としました。これが大坂本願寺で、現在の大坂城のあたりに